

## 平塚市総合計画（令和2年度～令和4年度）の取組状況の総括

### 1 概要

令和2年度を始期とした「平塚市総合計画～ひらつかNEXT～改訂基本計画」の実施計画事業は、全体最適の視点から施策単位での行政評価を実施し、計画の着実な推進を図ることとしています。

この度、令和5年度で計画期間が満了することから、(仮称)次期平塚市総合計画を検討する基礎資料とするため、これまでの取組に対して、評価・検証を行いました。

### 2 評価方法等

施策における成果を見極めるために、重点施策に数値目標と重要業績評価指標（KPI）を、分野別施策に成果指標を設定しており、次のとおり評価を行います。

なお、本来は、令和5年度（2023年度）の目標値と実績値で比較をして評価をすることとなりますが、令和5年度（2023年度）の実績値は、令和6年度（2024年度）中に確定することから、これまでの実績値をもとに令和5年度（2023年度）の推計値を算出します。

また、総合計画の分野別施策ごとに重要度と満足度を調査した令和4年度市民意識調査からも検証を行います。

#### ・達成率の計算方法

$$\text{達成率} = \frac{\text{令和5年度（2023年度）における推計値が目標値を上回った指標数}}{\text{（施策の）全ての指標数}} \times 100$$

#### ・令和5年度（2023年度）の推計値の算出方法

$$\text{令和5年度推計値} = \text{令和4年度実績値} + \text{平成30年度～令和4年度実績値の平均増減（回帰直線による予測）}$$

#### ・評価区分

達成・・・令和5年度目標値と比較して、令和5年度推計値が上位に位置している。

未達成・・・令和5年度目標値と比較して、令和5年度推計値が下位に位置している。

### 3 重点施策における評価

- ・数値目標の値が達成の評価は、**全 11 指標中、4 指標(達成率 36.4%)**でした。
- ・重要業績評価指標 (K P I) が達成の評価は、**全 33 指標中、9 指標(達成率 27.3%)**でした。

重点施策	数値目標				重要業績評価指標 (KPI)			
	指標数	達成	未達成	達成率	指標数	達成	未達成	達成率
I 強みを活かした しごとづくり	5	3	2	60.0%	7	3	4	42.9%
II 子どもを産み育て やすい環境づくり	1 (1)	—	—	—	9	4	5	44.4%
III いくつになっても いきいきと暮らす まちづくり	2	0	2	0%	10	0	10	0%
IV 安心・安全に暮ら せるまちづくり	4	1	3	25.0%	7	2	5	28.6%
計	12 (1)	4	7	36.4%	33	9	24	27.3%

※ ( ) 内の数値は、令和 4 年度実績が確定していない指標数。達成率の計算に含めません。

※数値目標の未達成合計値を「8」から「7」に修正しました。

※重点施策 II における重要業績評価指標 (KPI) の未達成値を「4」から「5」に、達成率を「50.0%」から「44.4%」に修正しました。

※重要業績評価指標 (KPI) の未達成合計値を「23」から「24」に修正しました。

#### 4 分野別施策における評価

- ・成果指標の値が達成の評価は、**全 79 指標中、27 指標(達成率 34.2%)**でした。

分野別施策	成果指標			
	指標数	達成	未達成	達成率
1 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	23	8	15	34.8%
2 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	24	6	18	25.0%
3 自然と人が共生するまちづくり	15	4	11	26.7%
4 活力とにぎわいのあるまちづくり	17	9	8	52.9%
計	79	27	52	34.2%

※ () 内の数値は、令和4年度実績が確定していない指標数。達成率の計算に含めません。

(参考) 令和4年度分野別施策における決算見込額の集計結果

分野別施策	対象事業数	決算見込額 (千円)
1 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	59	3,679,340
2 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	70	13,013,185
3 自然と人が共生するまちづくり	35	883,113
4 活力とにぎわいのあるまちづくり	32	6,101,789
計	196	23,677,427

## 5 検証

### (1) 総合計画全体

総合計画全体の達成状況は、全 123 指標中、40 指標が達成しており、達成率は 32.5%で、新型コロナ発生後の直近 3 年で見た推計の場合、52 指標が達成となり、達成率は 42.3%でした。新型コロナ発生後に工夫して事業展開するとともに、活動再開に合わせて施策を推進した結果と考えます。

新型コロナ危機において、感染抑制と社会経済活動の両立を目指し、活動自粛と施策推進を使い分けた結果、各施策の達成率に差が生じたものの、市民意識調査における満足度はすべての施策で高まっています。

### (2) 重点施策

- ・重点施策の数値目標と K P I を合わせた全 44 指標中、13 指標が達成しており、達成率は 29.5%で、新型コロナ発生後の直近 3 年で見た場合、17 指標が達成となり、達成率は 38.6%でした。
- ・重点施策 I と重点施策 II は、新型コロナの影響の中でも社会経済を回し続けるとともに、子どもの学びを止めないため、取組を推進したことにより、他の重点施策と比べ、高い達成率となったものと考えられます。
- ・一方で、重点施策 III は、市民の生命と健康を守るため、活動自粛を優先させ、取組を推進したことにより、低い達成率となったものと考えられます。特に重点施策 III の対象が重症化リスクの高い高齢者となっていることが、達成率に影響しています。
- ・なお、重点施策 IV は、市民の生命と財産に関わる防災、減災対策や犯罪、消費者被害の防止及び交通安全対策を着実に実施した結果、重点施策 I、II と重点施策 III の中間程度の達成率となったものと考えられます。

### (3) 分野別施策

- ・分野別施策の成果指標全 79 指標中、27 指標が達成しており、達成率は 34.2%で、新型コロナ発生後の直近 3 年で見た場合、35 指標が達成となり、達成率は 44.3%でした。
- ・分野別施策 1 と分野別施策 2 は、達成率が低くなっています。特に分野別施策 2 においては、新型コロナによる活動制限が解除された後も、重症化リスクの高い高齢者や障がい者は、活動自粛が続いていることや感染防止への配慮などから、活動規模の縮小や再開の遅れなどが影響したものと考えられます。  
一方で、市民意識調査において、満足度が大きく高まっており、達成率は低かったものの、活動自粛を優先したことが、満足度向上につながったものと考えられます。
- ・分野別施策 3 は、最も達成率が低くなっています。支援の対象である市民活動団体は、重症化リスクの高い高齢者が中心となっており、活動再開の遅れなどが達成率に影響したものと考えられます。  
一方で、市民意識調査において、満足度が高まっており、達成率が低かったものの、公共下水道や公園といった生活環境整備を着実に実施したことが満足度向上につながったものと考えられます。
- ・分野別施策 4 は、最も達成率が高くなっています。新型コロナの影響がある中でも、社会経済を回し続けるため、様々な施策を展開した効果が表れたものと考えられます。  
一方で、市民意識調査において、満足度が低くなっていますが、市民のかかわりが薄く、国内の景気や世界経済の動向、物価変動など、外的要因の影響を受けやすい分野であるためと考えられます。

## 6 今後の対応

- ・イベントや交流に関する事業においては、新型コロナによる活動制限の影響が大きくありましたが、友好都市との小学生交流事業や人権意識普及・啓発事業では、実施方法をオンラインに変更したことにより、参加者数が大幅に増加しました。
- ・また、外国籍市民相談においては、テレビ通訳システムを搭載したタブレット端末を導入し、対応言語を増加させたことにより、外国籍市民相談窓口の利用人数が増加しました。

⇒オンライン開催やICT機器などのデジタル技術を活用することは、施策効果を高めるうえで有効な手段であったと考えられます。

⇒今後、新型コロナ感染症を特別視しない日常へ戻っていくことから、自粛していた交流事業の実施や地域活動などを再開していくことや、活動再開に合わせて生じる事故やトラブルへの対応が必要です。さらに新型コロナ危機における経験を活かして、施策効果を高めるデジタル化を進めることが必要です。

以 上